

意見広告運動 事務局から

■事務局の現状

去る5月3日に意見広告を出した後、事務局は、多忙な毎日が続いている。小冊子『武力で平和は創れない』（略称：『非武装パンフ』）の編集、発行、発送に追われているからだ。意見広告掲載後は夏休みに入った昨年とは様変わり状態である。

小冊子初版1千部は1週間で、2刷1千部は3日で完売、3刷2千部も2日で完売した。今、4刷3千部を発注、9月末現在、印刷部数は1万部にも達している。このような問答集が全国の現場で切実に必要とされ、待たれていたことを物語るものだ。

そもそも小冊子を発行することになったのは、読売新聞に掲載の目処がつかないところ、スタッフのNさんが「読者との意見のキャッチボールをしたらどうだろう」と提案したことがきっかけ。読売の読者は、おそらく「9条改正」賛成の人が多いただろうとの読みからだ。『そりゃいい』『おもしろい』と全員大賛成。意見広告の片隅に「対話」を呼びかける一文を載せることになった（掲載後の反応につい

ては、「ニュース」96号参照）。

寄せられた意見に対しては8月15日までに回答すると公約したこともあって、意見は逐一丹念に記録した。その膨大なデータは、パソコンの得意なHさんが頑張って分類、整理してくれた。それをもとに「30の会」の人たちなどの応援を得て、『武力で平和は創れない』ができた。

意見を寄せていただいた方には、手紙を添えて小冊子を送った。その方からの再反論もあり、当初私たちが望んだ「キャッチボール」が今も続いている。

また、意見広告の賛同者には、小冊子ができたことを知らせるハガキを送ったところ、注文が殺到。うれしい悲鳴をあげながらの発送作業という次第。「この様な、安価且つ即応性のある画期的な冊子の存在を知り、仲間に配布したく、又私自身の研鑽のためにメールを差し上げた次第です」という声も、多数寄せられている。広告掲載の資金集めの運動から一歩前進し、運動は新しい展開を見た。

■次期意見広告運動について

第2期から運動をやってこられたIさんが、健康上の理由で、第5期を最後に事務局を降りることになった。残ったスタッフは、運動経験のない、いわば素人

の「一般市民」。次期運動は、素人らしい市民感覚を大切に、手探りしながら、若い人や子どもを含めた、多くの人たちの心に届くような運動を創っていきたいと思う。吉川さんが今号で、これからの運動展開のアイディアとこの意見広告運動の重要性について書いて下さっているの、ご覧いただきたい。

■ボランティア募集

今の事務局は、急速な憲法9条改悪の足音に危機感を抱いて駆けつけた老（若）男女で成り立っています。が、まだまだ頭数が足りません。

平日11時から16時の間の何時間か、事務所でお手伝いいただける方は、ファックスでご連絡くださいませ。お待ちしております。

小冊子の注文、ボランティアとも、ファックス番号は「市民の意見30の会・東京」と同じです。

（文責・佐橋弥生）

**武力で
平和は
創れない**

改憲必要論についての私たちの見解

市民意見広告運動

1部	300円
10部以上 1冊	250円
100部以上 1冊	200円

（いずれも送料別）